

弔 辞

謹んで、神奈川大学教授

故 小山吉之助先生の御霊に申しあげます。

先生の御逝去を知り、経済学部教授会一同は、深い悲しみに包まれております。

ここに教授会を代表し、御別れの言葉を述べさせていただきます。

小山先生は、一九四五年（昭和二〇年）九月、台北帝国大学文政学部を御卒業になられ、翌一九四六年（昭和二年）十一月、神奈川大学の前身である横浜専門学校教授に就任されました。

学制改革により、一九四九年（昭和二四年）四月、神奈川大学が発足すると同時に、経済学部専任講師になられ、一九五五年（昭和三〇年）四月、助教授、一九六二年（昭和三七年）四月、教授に昇任されました。

若き日の小山先生が本学に着任された一九四六年（昭和二年）は、わが祖国が太平洋戦争に敗れて間もない時期であり、日本社会の混乱は言語に絶するものがありました。戦争による経済の破綻と悪性インフレは、わたしどもの生活をどん底に陥れました。先生は、このような困難な時代に、研究者、教育者として出発されました。

先生の御専門は税務会計論、簿記論であり、研究面では優れた御論稿を残しておられます。例えば、従来の財務諸表論が相対分析に終始していることを指摘し、資金表の調製によってその欠けたるところを補った論稿などがそれであ

ります。一九六五年（昭和四〇年）には、日本会計研究学会の理事に就任され、学会の発展に貢献されました。また教育面では、先生の温和な風貌、率直で飾らない丁寧な講義ぶりは、学生の心をとらえ、先生のゼミナールは、多くの優れた人材を社会に送り出しました。

本学をはじめ全国の大学で吹きあれた大学紛争の時期、すなわち一九六八年（昭和四三年）十二月、小山先生は神奈川大学理事に就任され、紛争の解決のために尽力されました。

思い返りみますれば、先生は本学に四二年余り奉職され、経済学部の最長老教授であるばかりでなく、本学全体の最長老教授の一人でもありました。先生は、新制神奈川大学の歴史、経済学部の歴史そのものであります。

先生がこよなく愛した神奈川大学は、昨年創立六〇周年を迎え、また本年は経済学部開学四〇周年にあたります。このような時期に先生を失うことは、痛恨の極みであります。

小山吉之助先生との御別れに臨み、優れた教育者、研究者であられた先生の御功績をたたえ、御冥福を御祈り申し上げます。

小山吉之助先生、安らかにねむれ。

さようなら小山吉之助先生。

一九八九年（平成元年）四月二二日

神奈川大学経済学部長 中村平八